

令和6年11月2日の降雨後の逢初川源頭部の状況

1 逢初川源頭部の状況

- 令和6年9月の台風10号に伴う大雨の影響により、これまでに3箇所の崩落（【表1】を参照）が確認されています。
- 令和6年10月31日に実施した現地確認の結果、新たな変状（亀裂）が確認されました。
- 令和6年11月2日に熱海市で連続雨量107mmを観測したことから、降雨後に現地を確認したところ、3箇所の崩落と亀裂には大きな変化は見られませんでした。

【表1】 これまでに確認された崩落（3箇所）

箇所	崩落等の規模	崩落の状況
崩落①	・幅5m、長さ10m、 ・土量10 ³ m ³ 程度	・湧水や浸食が見られないことから、降雨の浸透により斜面の土砂が落下したものであり、大規模な崩壊につながる恐れは低いと考えています。 ・11月3日、崩落状況に大きな変化がないことを確認しました。
崩落②	・幅7m、長さ10m、 ・土量40 ³ m ³ 程度	
崩落③ (下流右岸側)	・幅40m、長さ10m、 ・土量400 ³ m ³ 程度	・自然斜面が崩落したものです。 ・崩壊が拡大する可能性は低いと考えています。 ・11月5日、崩落状況に大きな変化はなく、下流への土砂移動がないことを確認しました。



2 砂防堰堤の点検結果



- ・11月5日、源頭部下流の砂防堰堤の土砂の堆砂状況の確認を行いました。
- ・前回から堆砂状況に変化がないことを確認しました。

3 新たに発生した亀裂に関するQ & A



11月2日に熱海観測地点で連続雨量107mmを観測した後の状況（令和6年11月3日撮影）

Q 新たに発生した亀裂はどこに発生したのですか。規模はどのくらいですか。

A 今回確認された亀裂は、行政代執行で土砂撤去した斜面において、地山の上に薄く残った土砂に段差30cm程度の亀裂が長さ30m程度発生したものです。

Q 亀裂が発生した原因は何ですか。

A 亀裂の周辺には湧水や浸食が見られないことから、発生原因は雨水の浸透に伴う土砂の重量の増加による自然落下と考えられます。

Q 県は行政代執行で不安定な土砂を撤去したと説明していましたが、下流に暮らしていて大丈夫ですか。

A 行政代執行は、安定計算の結果や専門家等の意見を踏まえ、安定している地山を削らないよう留意して不安定な土砂を撤去したものであり、計画どおりに完了しているため、安全性の確保が適切に行われたと考えております。

○今後も、大雨後のパトロール等により経過観察を行ってまいります。源頭部の状況について、住民の皆様へ情報提供してまいります。

<お問合せ先> 静岡県

源頭部の崩落に関すること： 暮らし・環境部 環境局 盛土対策課 054-221-3302

崩落③に関すること： 経済産業部 森林・林業局 森林保全課 054-221-2643

砂防堰堤の堆砂に関すること： 交通基盤部 河川砂防局 砂防課 054-221-3041